

## 編 集 後 記

本号はとくに進行癌を中心に編集した。これまで編集の主力を早期胃癌においてきたが、やはり進行癌についても触れなくては片手落ちだという意見が強く起こってきた。もち論進行癌ならば何でもいいというわけではなく、早期胃癌だと思って手術をしてみたら、組織学的には早期胃癌の範疇を越えていて進行癌だった例とか、また進行癌でも凹凸の度が少なくて誤診の危険の多いスキルスなどとかについて特に考えようとしたわけである。また進行癌であり乍ら、早期胃癌と同じように予後のよい胃癌がある。それは一体どんな胃癌なのかという考察もして貰った。要するに早期胃癌との関連において、進行癌を見直してみようと考えたわけである。

著者の方々の御努力で大変面白い論文が揃った。何れも臨床に密着した観察がなされており、貴重な記録である。また進行癌に関する座談会も非常に円滑な進行を示し、文章に尽せない微妙な面白さが醸し出されている。進行癌も見方を変えたと大変面白くなるものである。

長い間望んでいた沖縄の消化器病学会の展望を漸く掲載できることになった。喜屋武氏他執筆者の方々は那覇市にあって、常に学会の中心となって活動されている方々で、いろいろ不自由な中での御努力に深甚の敬意を表明するものである。切除胃癌例中における早期胃癌の頻度も高い。今後一層の御精進のほどをお祈りする次第である。また沖縄の他熱海、山口県などの同好会や研究会のニュースも貴重である。この雑誌がこれら研究会に参加される先生方にどのような役割を果たすべきか、御意見を遠慮なくお寄せいただきたいと思う。

&lt;村 上 忠 重&gt;

&lt;編集&gt; 早期胃癌研究会